

沖縄県青年海外協力隊を支援する会会報

# はいむるぶし

(沖縄八重山地方の方言で南十字星の意 題字：故末次一郎氏)

## 第7号

〒901-2552 沖縄県浦添市前田1143-1  
国際協力機構沖縄国際センター内  
tel 098-876-6000 fax 098-876-6014  
沖縄県青年海外協力隊を支援する会  
発行責任者：事務局長 東江賢次

### 第十一回通常総会開催

#### 副会長に津嘉山朝祥

#### (進路相談カウンセラー)を選出

沖縄県青年海外協力隊を支援する会は、五月三〇日午後六時から浦添市内の国際協力機構沖縄国際センターにおいて、第十一回通常総会を開催した。

総会第一部は、帰国隊員報告として吉川謙一隊員(13才、サモア 養殖)が、3年間に亘って南太平洋上のサモアで行ってきたシャコ貝やシラヒゲウニなどの養殖研究について、写真を交えながら活動報告した。

報告を聴いた参加者から、研究レベルの高さは、専門家並だとの驚きの声が上がった。

第二部の総会の部においては、新井博之沖縄国際センター所長と水野富士夫(社)協力隊を育てる会常任理事のあいさつのあとに、平成十六年度の活動報告と決算、十七年度の活動計画と予算の審議を行い、また、役員の一部改選を行った。

役員改選の目的は、沖縄県支援する会設立十周年事業のひとつとして平成十七年度に実施する「第十四回開発教育全国集会沖縄大会」に向けて、執行体制の強化を図る必要があることから、副委員長を一名追加すること。



活動報告する吉川隊員

事務局から提案のあった津嘉山朝祥氏(協力隊進路相談カウンセラー、元沖縄県教育長)が、参加者全員の大きな拍手で承認された。

### 開発教育全国集会沖縄大会

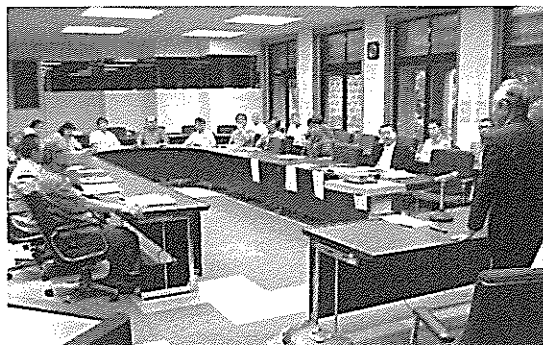
#### にむけて始動

(社)協力隊を育てる会と各県支援する会等組織は、毎年、各県持ち回りで開発教育全国集会を開催している。

開発教育集会の目的は、ひとりでも多くの市民が途上国理解とその支援に関わっていくことを目指すもの。また、併せて現地での協力隊任務を終えた帰国隊員が、市民との接点の場を創っていくことにもある。

沖縄県支援する会は、二年前から、設立十周年事業の一環として第十四回全国集会を沖縄で開催することを検討し、準備を進めてきた。

五月三十日午後七時から、支援する会通常総会に引き続



実行委員会結成総会で、あいさつする水野(社)協力隊を育てる会開発教育委員長(右端)

# はいむるぶし

## 行ってきます

平成17年6月以降に出発した海外ボランティアの皆さんを紹介



**池原 千春** (日青ボ21回生 ブラジル 日本語教師)  
出身地：詔谷村

高校で英語を教えてきた経験を活かし、日本語学習者の目的に合わせた学習方法で楽しく勉強できる環境作りと、学校以外での行事や活動にも積極的に取り組み、人と人とのつながりを大切に活動をしていきたい。



**伊野波 瞳子** (日青ボ21回生 アルゼンチン 文化活動)  
出身地：那覇市

大学の現地実習で中南米を訪れ、日系社会の人々と話をするなかで、外国にある沖縄をもっと盛り上げて行きたいと思い応募した。収入に繋がる手工芸と行事を結びつけ、3世や4世の皆さんを惹きつけていきたい。



**長嶺 由誠** (協力隊17-1 ルーマニア 料理)  
出身地：沖縄市

淡水魚の消費量の多いポトシャニ県の職業訓練校で、調理実習を指導する。魚についてたくさんの調理方法を広めてきたい。



ボランティアの出発激励・帰国歓迎 (八汐荘にてh17.6)

き開催された実行委員会結成総会では、会則、役員、そして開催時期を平成十八年一月末とするなどの大枠を決めた。  
具体的な内容については、関係団体から実行委員を募り、企画していくこととした。結成総会で選出された役員は次のとおり。  
・実行委員長 津嘉山朝祥 (沖縄県支援する会副会長、進路相談カウンセラー)  
・副委員長 上原 盛毅 (沖縄県支援する会副会長、沖縄ペルー協会相談役、沖縄ポリビア協会相談役)  
・事務局長 東江 賢次 (沖縄県推進協議会事務局)  
・事務局次長 玉城 直美 (沖縄ZCO活動推進協議会事務局)  
・監査 米盛 徳市 (琉球大学教育学部教授)  
(実行委員 (十五名以内) は、関係団体等から募る)

## 進路相談カウンセラーが交代

平成十年十月から進路相談カウンセラーとして、隊員の応募や帰国の進路相談などの任にあたってきた大城昌剛氏が去る三月で退任し、四月から津嘉山朝祥氏 (前沖縄県国際交流・人材育成財団理事長、元沖縄県教育長) がその後任となった。  
津嘉山氏は、沖縄地区における四代目のカウンセラーとなる (①尚 詮↓②稲嶺恵一↓③大城昌剛↓④津嘉山朝祥)。

よろしく願います



(新任 津嘉山朝祥)

かつての大交易時代の歴史「万国津梁」として海外雄飛の覇気にあふれた先人たちにならい、開発途上国の新しい国づくりに出向かれ、献身的に貢献されたボランティアの皆さんに感謝と敬意を表します。帰国後において、その貴重な体験が活かされ、本県の振興発展に存分に活躍いただけるよう、精一杯ご支援をさせていただきます。

いちやれば兄弟の心意気を大事に

(退任 大城昌剛)

六年五か月に亘って百余名の隊員の派遣・帰国に関わってまいりました。ときには帰国報告を兼ねての居酒屋談義に花を咲かせ、人生を語り合い楽しく過ごすことができました。このような出会いに心から感謝し、厚くお礼申し上げます。



## はいむるぶし

## 協力隊の功労者

小野正美氏を囲み、  
協力隊の原点を考える

沖縄から昭和四十年代から五十年代にかけて派遣された協力隊OBらは、復帰前に沖縄からの協力隊参加に尽力し、実現させた小野正美氏（八二歳 東京都豊島区在住）を招待し、七月十一日の夜、那覇市内で小野氏を囲む会を開催した。

囲む会には、石垣島かららの参加者ももいて、総勢十五名が集い、賑やかな時を過ごした。

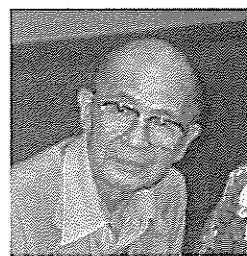
昭和四十年代の隊員からは、印パ戦争のために派遣時期が遅れたことや、ラオスでは毎日地雷に気をつけながら歩いていったこと、政権がそろそろ変わる頃は、すぐに脱出できるような毎晩、荷物をまとめて寝ていたなどのエピソードが紹介され、「奥地前進主義」の協力隊原点が思い出された。

翌十二日、小野氏は協力隊技術補完訓練を受け入れ



ている県農業試験場名護支場や帰国隊員が勤務する県畜産試験場、海洋博記念公園を訪問し、元隊員らを激励した。

また、「囲む会」に都合により参加できなかった協力隊OB数名が翌日の夕食会場に訪れ、小野氏と懇談した。



小野正美氏

小野氏は、山形県出身。衆議院秘書会長・外務大臣秘書時代に青年海外協力隊の構想を描き、外務省に設立を働きかけるなどして、昭和四十年の協力隊発足に大きな功績がある。

初代訓練所長に就任するとともに、昭和四二年、まだアメリカ統治下だった沖縄から協力隊員を送り出すため、米国防府、日本政府及び琉球政府に掛け合い、同意を取り付け、昭和四年一次隊として三名の沖縄青年が参加することができた。

その後、協力隊事務局国内課長を経て、初代指導相談課長に就任。この間においては、沖縄県担当として、年数回の沖縄訪問を行い、応募相談や帰国後の進路指導にあたった。国際協力事業団退職後も進路相談カウンセラーとして多くの協力隊OB・OGの進路に親身になって相談にのった。

また、初代隊員から三九年間、約2万人の訓練修了証書に一人一人の名前を墨書するとともに、協力隊派遣二十周年から始まった外務大臣感謝状にも隊員名を書き続けた。

隊員OBの全国組織である（社）青年海外協力協会が発足した昭和五八年から同協会の顧問を務めてきたが、平成十四年に退任した。

とりわけ沖縄県出身隊員とは長年に亘る親密な交流があることから、平成十六年に沖縄県青年海外協力協会（OB会）の顧問に就任した。

# はいむるぶし

## 事務局からお知らせ

### 協力隊現地視察の旅

### 引率者の募集

(社) 協力隊を育てる会は、約三十の国々へ現地視察の旅を計画しています。これは、現地で活動する協力隊員の家族を対象にした、隊員訪問を主目的としたツアー。



(社) 育てる会は、視察の旅に同行し、参加者の便宜を図る「引率者」を募集しています。希望者は、沖縄県支援する会事務局まで連絡をください。

推薦期限は、それぞれのツアーへの参加者の申込と同日となっておりますので、「育てる会ニュース」に掲載された日程表を確認してください。申込が過ぎている場合でも、毎年、募集していますので、来年に向けて一報ください。

### 沖縄県青年海外協力隊を支援する会

### 十周年記念誌への投稿募集

沖縄県協力隊を支援する会は、平成六年に設立され、満十年を経過しました。

この間の活動を記録に残すため、十周年記念誌を発行することとし、編集委員会をスタートさせました。会員の皆さんからの投稿を募集します。

内容は、協力隊、当会の活動、国際協力・交流などに関することを一〇〇〇字内外にまとめてください。

## 平川宗隆 著 豚国・おきなわ

私の一番好きな食べ物、豚の血イリチーである。小学生の頃は、旧正月になるとほとんどの家で一頭ずつ豚を漬けていた。一年のうちでその時にしか口にできないのが、前述の料理だったため、子供の頃の刷り込みでもって今でも一番好きである。

このようなショウグアチャーウワーの習慣などを紹介し、かつての古い沖縄が思い出される本である。

著者の平川氏は、沖縄県協力隊を 支援する会の初代事務局長(平657年)。五冊目の著書

彼は、日中は、県中央食肉検査所の所長として勤務し、夜、我々が酒を飲んで愚痴っている間に、本を書き、鹿児島大学の博士課程での研究も続けている。更に

は、沖縄大学地域研究所の研究員でもある。この七月からは月二回ペー

スで半年間の沖縄タイムス紙のコラムも担当している。

彼の活躍を見ると酒を減らさなければと思う今日この頃である。(伊江島出身の東江賢次)



### 編集室から

従来「はいむるぶし」は四ページだけで発行してきたため、その分量の記事をためているうちに時間が経ち、「今更ながら」と、なかなか発行できないこと度々。

昨年副会長に就任したU氏から、ニュースレターを出すようにとの度重なる強い指示。今回からは、少ページでもタイムリーをめざし、パソコン編集で対応していきます。

協力隊に関係すること、しないこと、なんでも構いません。印刷可能と思われるものは、編集室にお寄せください。随時受付中です。(あがり)